


要領様式第2号

出張報告届

令和2年11月5日

吹田市議会議長様

会派名 自由民主党絆の会

出張者氏名 白石 透  印

印

印

印


印

印

印

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	アットビジネスセンター池袋駅前本館(東京都豊島区)		
期間	令和2年11月2日から11月2日まで1日間		
出張の成果	別紙のとおり		
備考	議員・職員のための 自治体議員による『市長と自治体の活かし方』in 東京 「議員による「市長の活かし方」～落選して見えてきたこと～」 「自治体を活かす議員とは?～市長経験者が議員の質問を斬る!～」	認 印	会派代表者
			

吹田市議会事務局  
2.11.5  
受付

(株) 地方議会総合研究所

報告書

自治体議員による『市長と自治体の活かし方』

議員による「市長の活かし方」

自治体を活かす議員とは？

日程：11月2日

場所：アットビジネスセンター池袋駅前本館501号室

講師：大樹コンサルティング(株)代表取締役社長

元 藤沢市長 海老根 靖典氏

：一般社団法人 公共経営研究センター事務局長

元 逗子市長 平井 竜一氏

講師である、平井氏(元逗子市長)の弁では、議員の質問には、質問と答弁を事前に行政とすり合わせて、シナリオ通りに質問・答弁する出来レース型、行政との事前の答弁調整なしに、徹底的に批判・追及する批判追及型、事実確認の質問の後、要望を言って、自らの実績とする要望アリバイ型、持論を展開した意見表明に時間を割き、行政への質問は二の次の自己満足型、問題点を分析し、対案を示しながら行政の見解を質し、実現の導く政策論争型とに分類していたが、なるほどと思う。政策論争型がベストであることは言うまでもない。

さらに質問のポイントとして、

- ① 現状の問題点と原因を的確に分析
- ② 将来ビジョンと合致した政策を示す
- ③ 具体的解決策の提案がある
- ④ 担当部署が課題を共有し解決に向けた取り組みに導いている
- ⑤ 財源と政策の優先順位が明確である
- ⑥ 継続して取り上げ、質問を発展させるとしている。

逆に調べればわかることを質問するであるとか、行政の取り組みの進捗と見解を聞くのみであったり、行政批判に終始するのは市長からみて意味のない質問だと言っていたが、同感である。

まとめとして、「検討する」との答弁で終わらせるのではなく、いつまでに、どのようにする、など追及する。また、予算が付いて満足せず、実施過程と事後評価にもこだわる。例えば年度途中で進んでいるかどうかなどチェックを入れたり、政策間の優先順位を質す。また財源の裏付けをする。他市の先進事例を参考にするなら、当市に合わせた取組を提案するなど、市長サイドからみた質問の内容には、深さがあるんだと感じさせられた。元市長の実例には、参考になることも多々あった。今後の議会質問に活用していきたい。